

〈原著論文〉

## パネルシアターの小学校教材としての確立過程に関する研究 ——小学校向けパネルシアター教材の出版物・研究発表大会冊子の検討——

田 中 正 代

### 抄 録

---

パネルシアターが小学校教育に取り入れられ、どのように教材としての価値をもっていったのかをその歴史と確立過程について明らかにするために、出版物や研究大会発表冊子を収集した。そして、学習指導要領の改定ごとに分け、分析・考察した。その結果、2つのことが明らかになった。①小学校向けのパネルシアター教材の広がりや開発には4つの研究組織の存在がある。②教科別に小学校向けパネルシアター教材の出版物や教材を検討した結果、その時代の教育背景が関係している。この2点が明らかになったことにより、パネルシアターは小学校へ教材として広がり、教材として確立していったと考えられる。

---

キーワード：小学校向けパネルシアター、教材確立過程、出版物、研究大会冊子、研究組織、

### 1. はじめに（問題の所在と研究目的）

パネルシアターは、1973年古宇田亮順（元淑徳大学、墨田区西光寺住職）により創案された教材で、幼稚園や小学校の教育活動に取り入れられている。フランネルの布地を貼ったパネル板（舞台）に、Pペーパー（不織布・三菱MBSテック130番、180番）に描いて作った絵人形を貼りつけたりはずしたりして演じる（田中、2021）<sup>(1)</sup>教材である。田中（2018）<sup>(2)</sup>は、パネルシアターの教材としての確立過程を創案者である古宇田の「技法」に焦点をあてて分析・考察した。その結果、「素材と技法により多様な展開や様々な変化を可能にする」ことが、教材としての価値をもっていったと述べている。これは、パネルシアターそのものが、教材として確立していく過程を示している。

では、パネルシアターは小学校教育の教材としてどのように使用され広がっていったのだろうか。田中（2019）<sup>(3)</sup>は、教師がパネルシアターの教材を開発する視点として「①授業の導入や課題提示で子どもを魅了するという視点②わかりやすい・理解しやすい教材を制作するという2つの視点」にあるとしている。その他にも、パネルシアターを小学校で活用した授業を分析し、活用の効果を

示した論文はいくつか発表されている。しかし、小学校向けのパネルシアター教材の研究がいつごろから始まりどのように小学校教育へ広がっていったかについては、明らかにされていない。

本研究では、パネルシアターが小学校教育に取り入れられ、どのように教材として広がっていったか、その歴史と確立過程について明らかにすることを目的とする。

## 2. 研究方法

- ①小学校教育に取り入れられたパネルシアター教材について記されたもので公に発表されている研究発表大会冊子や出版物を収集する。
- ②パネルシアターを小学校の授業に活用した時期や出版物の発行時期について時系列で整理する。その時代における教育の方向性とその関連を知るために学習指導要領改訂<sup>4)</sup>時期で分け、表にまとめ整理する。
- ③①②を元に、パネルシアターの教材が小学校教育に広がっていく様子とパネルシアターが教材として確立していく過程について分析・考察する。

## 3. パネルシアターの小学校教材への取り入れの歴史の変遷

パネルシアターの小学校教育への活用を文部科学省の学習指導要領の改訂に合わせ、5期に分けて表にまとめた。出版物や研究発表大会冊子ごとに整理番号をつけて、掲載されている教材の数を教科ごとに表した。出版物や研究発表大会の詳細は、整理番号順に表の下に（注）として記した。

### 3.1. 第1期：1973年パネルシアター誕生～1989年以前の小学校向けのパネルシアター

1973年に古宇田がパネルシアターを創案して最初の出版物である『楽しい絵ばなし歌あそびパネルシアター』<sup>(4)</sup>には、パネルシアターが「文化財の中に紙芝居と同じように一人で演じられる」ものとして紹介された。そして、『歌と笑顔をはこぶパネルシアター～誕生40周年記念誌～』<sup>(5)</sup>によると「古宇田が浄土宗の住職であるということから、仏教教義や説話をわかりやすく理解してもらえるような作品や、子ども達の交流の手助けとなるようなものが多く生み出された」と記されておりパネルシアター誕生当初は、教育の中での活用は考えていなかった。また、1977年NHKテレビの「おかあさんといっしょ」などで紹介され、幼児教育へ広がっていったとも記している。学習の要素をもった活用は創案当初は考えられていなかったことがわかる。

表1 1973年パネルシアター誕生～1989年以前の小学校教材としてのパネルシアター

整理番号	発行年	国語	算数	理科	社会	生活	音楽	体育	図画 工作	家庭	学級 活動	道徳	総合
1	1982		1			—							—
2	1983		1			—							—
合計		0	2	0	0	—	0	0	0	0	0	0	—

\*生活科・総合的な学習の時間は、まだ創設されていないため、—にした。

- (注1) 1. 原田智恵子, 1982『ひと』10月号, 太郎次郎社  
2. 原田智恵子, 1983『ひと』5月号, 太郎次郎社

表1によると、原田はパネルシアターを初めて小学生向けの学習教材として紹介した。パネルシアター創案から9年経って学習へ活用する発想が生まれた。1977年、学習指導要領改訂は「ゆとりある充実した学校生活の実現＝学習負担を適正化」と言われている。原田のパネルシアター教材は、家庭学習ではあるが、算数のたし算・ひき算を楽しく・わかりやすくする学習教材として紹介された。そして、小学校教育においてパネルシアターは、教材としての存在を知られていないことが、推察される。当時の教科書や学習指導要領などにはパネルシアターの文言を見つけることができなかった。

### 3.2. 第2期：1990年～1998年の小学校教材としてのパネルシアター

1990年改訂の学習指導要領は、「社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成、(生活科の新設、道徳教育の充実)」がキーワードに挙げられている。この時期のパネルシアターの小学校での活用は表2になる。

表2 1990年～1998年の小学校教材としてのパネルシアター

整理番号	発行年	国語	算数	理科	社会	生活	音楽	体育	図画 工作	家庭	学級 活動	道徳	総合
3	1994											1	—
4	1996			1		1							—
5	1997	4	7	5	2		4	5	1	1	5	1	—
6	1997	1	1										—
合計		5	8	6	2	1	4	5	1	1	5	2	—

\*総合的な学習は、まだ創設されていないため、—とした。

- (注2) 3. 葛飾区小学校教育研究会道徳研究部, 1994『研究収録第29号・道徳』  
4. 東京都児童文化研究発表大会, 1996『第33回東京都児童文化研究発表大会葛飾区大会』  
5. 久保田正巳, 1997『作ってみよう ペープサート&パネルシアター』別冊教育技術1997年12月号, 小学館  
6. 東京都児童文化研究発表大会, 1997『第12回全国公立小学校児童文化発表大会第34回東京都児童文化研究発表大会江戸川区大会』

表2によると、出版物の一つは小学館の書籍でパネルシアターを初めて先生方に紹介した。そし

て、新設された生活科以外の全ての教科における教材が紹介されている。掲載された教材を確認するとパネルシアターのしかけや技法などはほとんど使われておらず、初心者でも簡単に活用できるものが多くなっている。研究発表大会冊子は、先生方への提案授業として紹介されている。学習指導要領のキーワード「生活科の新設と道徳教育の充実」からなのかパネルシアターの生活科での活用や道徳の資料提示として授業提案された。これらが、パネルシアターの小学校教材としての活用の始まりと考えられる。

### 3.3. 第3期：1999年～2007年の小学校教材としてのパネルシアター

1999年学習指導要領改訂のキーワードは、「基礎・基本を確実に身に付けさせ、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」の育成（教育内容の厳選、「総合的な学習の時間」の新設）」となっている。

表3 1999年～2007年の小学校教材としてのパネルシアター

整理番号	発行年	国語	算数	理科	社会	生活	音楽	体育	図画 工作	家庭	学級 活動	道徳	総合
7	1999		1	1		1							
8	1999			1									1
9	1999											1	
10	2000						1						
11	2000		2									1	
12	2001	1	3	1								6	
13	2001											1	1
14	2002	1	1	1									1
15	2003		1			1							
16	2003		1										
17	2003	1				1							
18	2004	3	1								1		
19	2005	1	1										1
20	2006		1	1									
21	2007									1			1
合計		7	12	5	0	3	1	0	0	1	1	9	5

- (注3) 7. 東京都小学校児童文化研究会, 1999『児童文化手法で総合的学習を創る』明治図書  
 8. 東京都児童文化研究発表大会, 1999a『第14回全国公立小学校児童文化研究発表大会 第36回東京都児童文化研究発表大会北区大会』  
 9. 東京都児童文化研究発表大会, 1999b『第35回東京都児童文化研究発表大会墨田区大会』  
 10. 台東区教育研究会, 2000『研究集録46』  
 11. 東京都児童文化研究発表大会, 2000『第15回全国公立小学校児童文化研究発表大会 第37回東京都児童文化研究発表大会八王子市大会』

12. 足立区実践開発研究報告, 2001『子どもの学ぶ意欲を高めるパネルシアターの開発と評価の工夫』
13. 東京都児童文化研究発表大会, 2001『第16回全国公立小学校児童文化研究発表大会 第38回東京都児童文化研究発表大会中野区大会』
14. 東京都児童文化研究発表大会, 2002『第39回東京都児童文化研究発表大会世田谷区大会』
15. 久保田正巳, 2003『ペープサート・パネルシアターを使った授業』教育技術1年6月号, 小学館
16. 日本子ども文化学会, 2003『今すぐ始めよう, 子ども文化を取り入れた教育開発』明治図書
17. 東京都児童文化研究発表大会, 2003『第18回全国公立小学校児童文化研究発表大会 第40回東京都児童文化研究発表大会練馬区大会』
18. 東京都児童文化研究発表大会, 2004『第19回全国公立小学校児童文化発表大会 第41回東京都児童文化研究発表大会江戸川区大会』
19. 東京都小学校児童文化研究会, 2005『第20回全国公立小学校児童文化研究発表大会 第42回東京都児童文化研究発表大会墨田区大会』
20. 東京都児童文化研究発表大会, 2006『第43回東京都児童文化研究発表大会葛飾区大会』
21. 東京都児童文化研究発表大会, 2007『第44回東京都児童文化研究発表大会中野区大会』

表3よりこの時期のパネルシアターの小学校教育への活用は、15件と第2期より増加している。3件の書籍のうち1件は、前述した久保田の2冊目の書籍である。そして、新設された「総合的な学習の時間」に合わせて東京都の児童文化研究会が書籍を出版した。その中にパネルシアターを活用した授業を掲載している。日本子ども文化学会は、授業で使う手法の一つとしてパネルシアターを捉え、算数での活用の仕方を紹介している。書籍以外の12件は研究発表大会での授業提案である。東京都児童文化研究会、全国児童文化研究会の授業提案者の所属は、区や県の教師であることより少しずつパネルシアター教材が研究され始めたと考えられる。

さらに、学習指導要領の改訂ポイントが「基礎・基本を確実に身につける」ことになっており、パネルシアター教材の活用も算数、国語、理科と主要教科の件数が多い。研究発表大会冊子を確認すると、パネルシアターの活用理由は、子どもが理解しやすい、楽しく学べるなどと記されており基礎基本の定着を考えた研究を始めたと考えられる。

### 3.4. 第4期：2008年～2016年の小学校教材としてのパネルシアター

2008年の学習指導要領改訂のキーワードは、「『生きる力』の育成、基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成のバランス（授業時数の増、指導内容の充実、小学校外国語活動の導入）」である。この時期のパネルシアター教材の活用数が第3期に比べてさらに増えているため、前半（表4）と後半（表5）に分けて表にまとめた。

表4より、小学校教育でのパネルシアターの活用が年々増えてきていることがわかる。また、前半4年間にパネルシアター教材が小学校教育へ活用されたのは全14件である。その内訳は、出版物が8件、そのうち書籍が2冊、教材6つとなっている。ここで、書籍ではなく初めて教材が出版されたことに注目したい。この教材は切って組み立てるだけで使用できる。この教材の出版により手軽にパネルシアターを活用した授業ができるようになったと考えられる。そして、この出版物全てが授業パネルシアター研究会監修になっていることから、パネルシアターを研究する研究組織ができていたことがわかる。執筆者は、現役の教師が中心になり研究している。パネルシアター活用は、学習指導要領の改訂ポイントになっている「基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判

断力・表現力等の育成のバランス」を意識しているのか、国語・算数の活用が多い。第3期に続き、主要教科中心に基礎基本の力を子どもにつけさせたい教師の思いも推察できる。

表4 2008年～2012年の小学校教材としてのパネルシアター

整理番号	発行年	国語	算数	理科	社会	生活	音楽	体育	図画 工作	家庭	学級 活動	道徳	総合	外国語 活動
22	2008		1					1						
23	2009	1	1											
24	2009	1	1								1	1		
25	2009											1		
26	2009	1												
27	2009													1
28	2009										1			
29	2009										1			1
30	2010		1										1	
31	2010	1	1					1						1
32	2011	3				1						1	1	
33	2012	1												
34	2012													1
合計		8	5	0	0	1	0	2	0	0	3	3	2	4

\*外国語活動が創設されたので左に欄を増やす。

- (注4) 22. 東京都児童文化研究発表大会, 2008『第23回全国公立小学校児童文化発表大会 第45回東京都児童文化研究発表大会豊島区大会』  
 23. 東京都児童文化研究発表大会, 2009『第24回全国公立小学校児童文化発表大会 第46回東京都児童文化研究発表大会文京区大会』  
 24. 授業パネルシアター研究会, 2009『授業で使おう! パネルシアター (低学年篇)』アイ企画  
 25. 授業パネルシアター研究会監修, 2009『おこづかい』アイ企画  
 26. 授業パネルシアター研究会監修, 2009『パネル博士の言葉の学習』アイ企画  
 27. 授業パネルシアター研究会監修, 2009『How are you? ~感情表現を学ぼう~』アイ企画  
 28. 授業パネルシアター研究会監修, 2009『食べ物大好き! 三つの仲間』埼玉福祉会  
 29. 授業パネルシアター研究会監修, 2009『What would you like? 英語でランチメニュー 食育でバランスメニュー』アイ企画  
 30. 東京都児童文化研究発表大会, 2010『第25回全国公立小学校児童文化発表大会 第47回東京都児童文化研究発表大会中央区大会』  
 31. 授業パネルシアター研究会, 2010『授業で使おう! パネルシアター (高学年篇)』アイ企画  
 32. 東京都児童文化研究発表大会, 2011『第48回東京都児童文化研究発表大会江東区大会』  
 33. 東京都児童文化研究発表大会, 2012『第27回全国公立小学校児童文化発表大会 第49回東京都児童文化研究発表大会墨田区大会』  
 34. 授業パネルシアター研究会監修, 2012『道案内をしよう』埼玉福祉会

後半(2013年～2016年)の教材活用は、表5で全20件になる。前半よりさらに6件も増えていることより、パネルシアターの授業研究が盛んになっていることがわかる。また教材の出版が増えていることよりパネルシアターの活用例を知りたがっている教師が多くなってきたのではないかと推察する。

表5 2013年～2016年の小学校教材としてのパネルシアター

整理番号	発行年	国語	算数	理科	社会	生活	音楽	体育	図画 工作	家庭	学級 活動	道徳	総合	外国語 活動
35	2013	1										1		
36	2013		1											
37	2013					1								
38	2013		1											
39	2014	2										1		
40	2014											1		
41	2014	1												
42	2014										1			
43	2014										1			
44	2014		1											
45	2014										1			
46	2014				1									
47	2014				1									
48	2015	1												
49	2015		1											
50	2015											1		
51	2015											1		
52	2015												1	
53	2015	1												
54	2016	1										1		
55	2016											1		
合計		7	4	0	2	1	0	0	0	0	3	7	1	0

- (注5) 35. 東京都児童文化研究発表大会, 2013『第28回全国公立小学校児童文化発表大会 第50回東京都児童文化研究発表大会三鷹市大会』
36. 授業パネルシアター研究会監修, 2013『忍者の呪文(かけ算・他)』埼玉福祉会
37. 日本生活教育連盟パネルシアター実践研究会, 2013『あかちゃんがうまれた』埼玉福祉会
38. 日本生活教育連盟パネルシアター実践研究会, 2013『さんすうたんけん教室—かずつてなかに』埼玉福祉会
39. 東京都児童文化研究発表大会, 2014『第29回全国公立小学校児童文化発表大会 第51回東京都児童文化研究発表大会八王子市大会』
40. 授業パネルシアター研究会監修, 2014『ひつじかいとおおかみ』大東出版社
41. 授業パネルシアター研究会監修, 2014『漢字のなりたち』大東出版社
42. 授業パネルシアター研究会監修, 2014『手をあらおう』大東出版社
43. 授業パネルシアター研究会監修, 2014『食物アレルギーを知らう』大東出版社
44. 授業パネルシアター研究会監修, 2014『分けた大きさをあらわそう』大東出版社
45. 宮田美恵子, 田中正代, 2014『安全ロボット君と命を守る4つのアイテム』埼玉福祉会
46. 日本生活教育連盟パネルシアター実践研究会, 2014『ダストンの探検』埼玉福祉会
47. 日本生活教育連盟パネルシアター実践研究会, 2014『ウォーターンの探検』埼玉福祉会
48. 東京都児童文化研究発表大会, 2015『第30回全国公立小学校児童文化発表大会 第52回東京都児童文化研究発表大会新宿区大会』
49. 授業パネルシアター研究会監修, 2015『ウォッチくん』大東出版社
50. 授業パネルシアター研究会監修, 2015『花を咲かせた水がめの話』大東出版社

51. 授業パネルシアター研究会監修, 古宇田亮順, 2015『ロバと親子』大東出版社
52. 日本生活教育連盟パネルシアター実践研究会, 2015『きみは見えないセシウムくん』埼玉福祉会
53. 日本生活教育連盟パネルシアター実践研究会, 2015『さんすうたんけん教室Ⅱ—3けたの数と計算』埼玉福祉会
54. 東京都児童文化研究発表大会, 2016「第31回全国公立小学校児童文化発表大会 第53回東京都児童文化研究発表大会中野区大会」
55. 授業パネルシアター研究会監修, 2016『アリとキリギリス』埼玉福祉会

20件の内訳は、出版物が17件と研究発表が3件である。出版物の内訳は、全て教材で前述したように、すぐに活用できる教材が求められてきていると考えられる。販売数については定かではないが、次々に出版していることから需要が増えてきたと推察できる。そして、日本生活教育連盟内にパネルシアター実践研究会ができ、教材を出版している。このことより、新たな組織で研究が始まったことが分かる。研究発表が盛んになったことや出版物の増加などからパネルシアター教材に注目する教師が増えていると考えられる。

活用教科別にみると、国語・算数・道徳が多く、基礎・基本の定着と道徳の資料提示の分かりやすさに着目した教材開発をしていると考えられる。

### 3.5. 第5期：2017年～2020年の小学校教材としてのパネルシアター

2017年の学習指導要領改訂のキーワードは、「『生きる力』の育成を目指し資質・能力を三つの柱で整理，社会に開かれた教育課程の実現」である。この時期にパネルシアターが小学校で教材活用されたのは4年間で5件ある。まだ学習指導要領が改定されて4年しか経っていない。内訳は、2件は切って組み立てればすぐに授業に活用できる外国語活動の教材である。やはり手軽に取り組めるところを教師が求めていることは続いている。また、文部科学省は2016年「教員勤務実態調査」の集計をまとめ、2019年1月25日の「学校の働き方改革」に関する中央教育審議会答申を受けて、「学校の働き方改革」について着手した。パネルシアター教材を教師自ら制作し活用するには、教材研究やパネルシアター教材の作成に時間を要する。教師の多忙性から今後もパネルシアターを手軽に活用できるところが求められていくと考える。



表 6 2017 年～ 2020 年の小学校教材としてのパネルシアター

整理 番号	発行年	国語	算数	理科	社会	生活	音楽	体育	図画 工作	家庭	学級 活動	道徳	総合	外国語 活動
55	2017	1									1			
56	2017													1
57	2018										2			
58	2019	1												
59	2020													1
合計		2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	2

\* 2020 年 2021 年の東京都児童文化研究発表大会は、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言発令に伴い中止となる。

- (注 6) 55. 東京都児童文化研究発表大会, 2017『第 32 回公立小学校児童文化発表大会第 54 回東京都児童文化研究発表大会杉並区大会』  
 56. 授業パネルシアター研究会監修, 2017『The North Wind and The Sun 北風と太陽』大東出版社  
 57. 東京都児童文化研究発表大会, 2018『第 33 回公立小学校児童文化発表大会 第 55 回東京都児童文化研究発表大会葛飾区大会』  
 58. 東京都児童文化研究発表大会, 2019『第 34 回公立小学校児童文化発表大会 第 56 回東京都児童文化研究発表大会渋谷区大会』  
 59. 授業パネルシアター研究会監修, 2020『みんなでチャレンジ!! Alphabet』大東出版社

## 4. 考 察

パネルシアターが小学校教育に取り入れられ、どのように教材として確立していったかについて歴史的な広がりや教材としての確立過程についてみてきた。その結果、以下の 2 点のことが明らかになった。

### (1) パネルシアター教材の広がりやに貢献する研究組織の存在

パネルシアターが、小学校教育に教材として広がっていった要因に以下に示す 4 つの研究組織の関与が考えられる。

- ①東京都児童文化研究会・全国公立小学校児童文化研究会は、1996 年からパネルシアターを活用した授業を研究発表大会で提案している。1997 年に同研究会内にパネルシアター部を新設し、小学校の教材としての活用を専門に研究し始めた。そして、現在まで毎年パネルシアター教材を開発し研究発表大会にて授業提案を行っている。このように、パネルシアター授業の広がりやに貢献していると考えられる。
- ②小学校向けのパネルシアター教材を最初に書籍にまとめたのは、久保田正巳である。久保田は埼玉県教師を中心に自主研究会を作り 2 冊のパネルシアターの書籍（整理番号 5・15）を出版した。その後の出版物はなく現在の活動については不明であるが、パネルシアター教材を広めることへ貢献していると考えられる。
- ③同じく小学校向けのパネルシアターの書籍と教材を出版した研究機関の一つに授業パネルシアター研究会がある。授業パネルシアター研究会は、関東を中心としたメンバーで構成されている。2009 年より書籍を 2 冊と 19 の教材を出版している。同研究会メンバーには東京都児童文

化研究会パネルシアター部に所属している教師もおり、今現在でも研究活動を続けパネルシアター教材を広めている。

- ④ 2014年、2015年に小学校向けのパネルシアター教材4つを出版している日本生活教育連盟パネルシアター実践研究会がある。日本生活教育連盟は、「『生活教育』を出版し子どもとともに学び、ともに生きるための保育・学校・地域づくりを研究している」<sup>(6)</sup> 団体である。全国的組織でその組織内にパネルシアターの研究会が発足し、パネルシアター教材の研究を始めた。

この4つの研究組織の研究発表や書籍、教材などの出版物により小学校向けのパネルシアターは広まっていったと考えられる。4つの研究組織の他にも全国には、個人やグループ単位で存在し研究は行われ、パネルシアターは小学校教材として確立していったと考えられる。

(2) 教科からみるパネルシアター教材としての確立過程

学習指導要領の改訂に合わせ5期に分けて小学校向けのパネルシアター教材について検討した。

出版物などの数を調べてまとめると表7のようになる。

表7によると、1期から始まった小学校向けのパネルシアターの出版物や教材などが年ごと増えている。3期4期が特に増え、注目されるようになった時期だと考えられる。また、教科別にまとめたものが表8である。

表7 学習指導要領改訂に合わせた出版物等の数

時期	出版物などの数
1期 (1973年～1989年)	2
2期 (1990年～1998年)	5
3期 (1999年～2007年)	15
4期 (2008年～2016年)	34
5期 (2017年～2020年)	5

第3期、第4期の学習指導要領の改訂キーワードは、「生きる力の育成」「基礎・基本」が挙げられていた。表8を見ると、国語・算数の教材開発数が多い。前述した教師のパネルシアターの教材開発の視点(田中, 2019)の「①授業の導入や課題提示で子どもを魅了するという視点②わかりやすい・理解しやすい教材を制作するという2つの視点」から考えると、「基礎・基本」を定着させ

表8 5期の教科別パネルシアター教材数

	国語	算数	理科	社会	生活	音楽	体育	図画 工作	家庭	学級 活動	道徳	総合	外国語 活動
1期	0	2	0	0	—	0	0	0	0	0	0	—	—
2期	5	8	6	2	1	4	5	1	1	5	2	—	—
3期	7	12	5	0	3	1	0	0	1	1	9	5	—
4期	15	9	0	2	2	0	2	0	0	6	10	3	4
5期	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	2
合計	29	31	11	4	6	5	7	1	2	15	21	8	6

るために、子どもに興味・関心をもたせた課題提示を行い、分かりやすく教えようとする教師の思いが、教材開発に生かされていたと考えられる。また、「道徳」への活用が2期より多くなってきたのは、1999年の『学習指導要領解説・道徳編』に低学年の資料提示としてパネルシアターが有効との文言が入ったことによると考えられる。また4期には小学校が道徳の授業を地区公開し始めたこともパネルシアターの教材化が、加速していった一因と考えられる。つまり、パネルシアター教材の研究の方向性は、学校での学びにむけた授業作りの方向性に関連していると言える。そして、教材開発者がその時代に合ったパネルシアター教材を提供していったことで教材として広まり、確立していったと考えられる。

さらに「教材整備指針」の一部改訂（2019）部分を確認すると、パネルシアターは「学校全体で共用可能な教材」として例示されている。以前は道徳・特別活動・総合的な学習・生活科と使用を絞っての例示だったが、今回は使用範囲が広く示されている。これは、小学校での授業提案や出版物などがパネルシアター教材を全ての教科で使用できることを示してきた結果と考える。

このように、パネルシアターは、研究組織の存在とパネルシアターの教材開発がその時代の学びの方向性に沿っていたことから、小学校教材として確立していったと考えられる。

## 5. おわりに

小学校教育へのパネルシアター教材の広がりや教材としての確立過程について出版物や研究紀要などからみてきた。しかし、今回は出版物などの情報からのみの検討になった。実際の研究機関がどのような思いや考えでパネルシアターを教材化していったかは、まだ明確になっていない部分が多い。研究機関や書籍の著者などへのインタビュー調査などで明らかにできる部分があると考えられる。また今回取り上げた研究機関の他にも日本全国に小学校向けのパネルシアター教材を研究する研究機関の存在があるだろう。今後は、調査を広げ小学校向けパネルシアターの教材の広がりや教材としての確立過程をさらに明らかにしていきたい。

### 引用・参考文献

- (1) 田中正代「発表・表示用教材としてのパネルシアターの有効性について—小学校4年生の国語科の発展教材『お話作り』の実践授業から—」子ども文化と教育研究 VOL. 4, 2021年 p 33
- (2) 田中正代「パネルシアター教材の教材確立に関する研究—創案者古宇田亮順の技法に着目して—」教材学研究第28巻 2017年 pp 7-16
- (3) 田中正代「小学校におけるパネルシアターの教材開発の視点」有明教育芸術短期大学紀要第10巻 2019年 pp 115-124
- (4) 古宇田亮順『楽しい絵ばなしと歌あそびパネルシアター』大東出版社 1973
- (5) 浄土宗『歌と笑顔をはこぶパネルシアター～誕生40周年記念誌～』2011 p 17 p 58
- (6) 日本生活連盟 [https://documen.site/download/pdf-5acf42e4f3ece\\_pdf](https://documen.site/download/pdf-5acf42e4f3ece_pdf) (11月20日検索)

Research on the process of establishing a Panel Theater as a primary school teaching method: Book of publications and Research conference for Panel Theater teaching method for primary schools

Masayo TANAKA

Abstract

---

We have collected publications and conference booklets to clarify the history and establish the process of how the Panel Theater was incorporated and gained value as a teaching resource for primary school education. Consequently, two points became clear.

(1) There are four separate organizations for the research and development of the panel theater as a teaching resource for primary schools.

(2) As a result of examining panel theater publications and teaching materials for primary schools for each subject, it was found that the educational background of the era is related.

From these two points, it became clear that the panel theater spread to primary schools as a teaching method and became established as a teaching method.

---

**Key words:** Panel theater for primary school as teaching, Establishment process, Publications, Research conference booklets and organizations